

# 南島

## 南島の地名と産業

『南島』という地名は現在は残っていないが、江戸時代以前からの古い村の名前である。淀川左岸に位置し、かつては淀川内のひとつの洲であったため、「南島」という地名が生まれた。

元和6年(1620)、江戸幕府の直轄地となり、以後、明治22年(1889)、森小路村、今市村、千林村と合併して『古市村』ができるまで、「南島村」として純然たる農村地帯を形成していた。当時、井路川とよばれる淀川水系の用水路、交通水路が発達していて、そこを、「三枚板」という幅三尺、長さ三間の小回り舟を自在に操って、農民たちは農作物や肥料を運搬し、村内を自由に往来していた。

このあたりは低湿地で、湿田が多く、米作の他、大



写真■大宮2丁目の電柱

「ミナミジマ」という地名の名残が、大宮2丁目にある電柱のプレートから見る事ができる。

消費地に近いため、野菜の収穫も盛んで、その作付けは全耕地の3割を占めていた。毛馬キュウリ、大根、マクワウリ、レンコンなどの他、菜種や綿実、梨（長十郎など）、ブドウ（甲州物）が作られていた。また、隣の「中村」では、湿地を利用して「河骨」が収穫され、薬物問屋に出荷されて、健胃・強壯・止血などの妙薬の薬種として重宝されていた。

明治22年(1889)から大阪市に編入された大正14年(1925)までは古市村内の「字南島」、編入後は「南島町」となったが、昭和4年(1929)に南島町から「大宮町」が分離、新設され、昭和25年(1950)には、大宮町に吸収されるかたちで『南島』の地名は消えたのである。

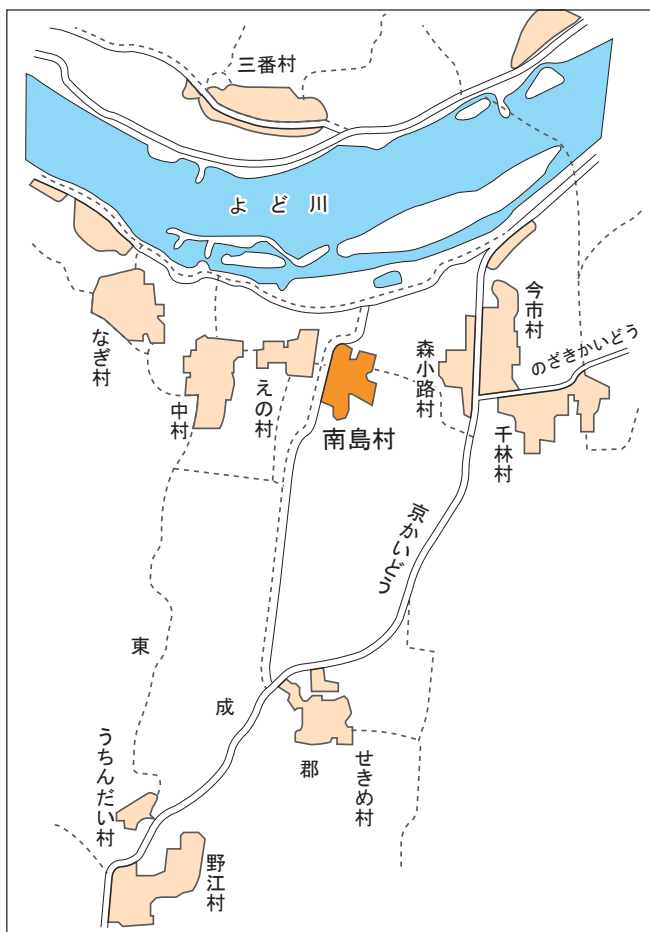


写真■三枚板



### 資料■郵便局名票

郵便局名票には、大阪府旭南島郵便局と記述されている。(現在の中宮4丁目にある旭中宮郵便局)



写真■旭区の古地図で見る南島の位置

# 西形家

大宮商店街に面した西形家は、代々庄屋を務めたとみられる旧家で、屋根には茅葺きだった頃の名残をとどめている。

大宮神社境内にある石造の橋には、庄屋として西形家の文字が見られる。また、橋の親柱には、江戸時代の年号と干支「弘化三丙午三月吉日」(※)が記されている。※弘化3年(1846)



写真■大宮神社境内にある橋

橋には「庄屋 西形」の文字が見られる。



写真■西形家



写真■西形家の石垣

石段、壁づたいの石垣は、かつて水路があったことを物語っている。

# 善立寺

天文23年(1554)室町時代、十代證如上人の直弟子の周道と村人有志により浄土真宗本願寺派末寺として創建された。明治18年(1885)、台風強雨により淀川が枚方付近で決壊し破滅的被害をもたらした「淀川大洪水」では、善立寺も天井一尺まで冠水被害を受けて過去帳等の貴重な記録を失った。

当時の貴重品のひとつ、厨子に入っている念持仏は、扉を閉めると枕に似ていることから、枕観音とも言われている。経本(経典)は、安政時代に木版掘りで作られた。

昭和6年(1931)に再建し現在に至る。



写真■善立寺



写真■念持仏(左) 経本(右)